

# グローバル・ストックテイク (GST)

パリ・ルールブックでの決定

気候変動とエネルギー領域 / 研究員

池田恵理

(吉野まどかフェローによる協力)

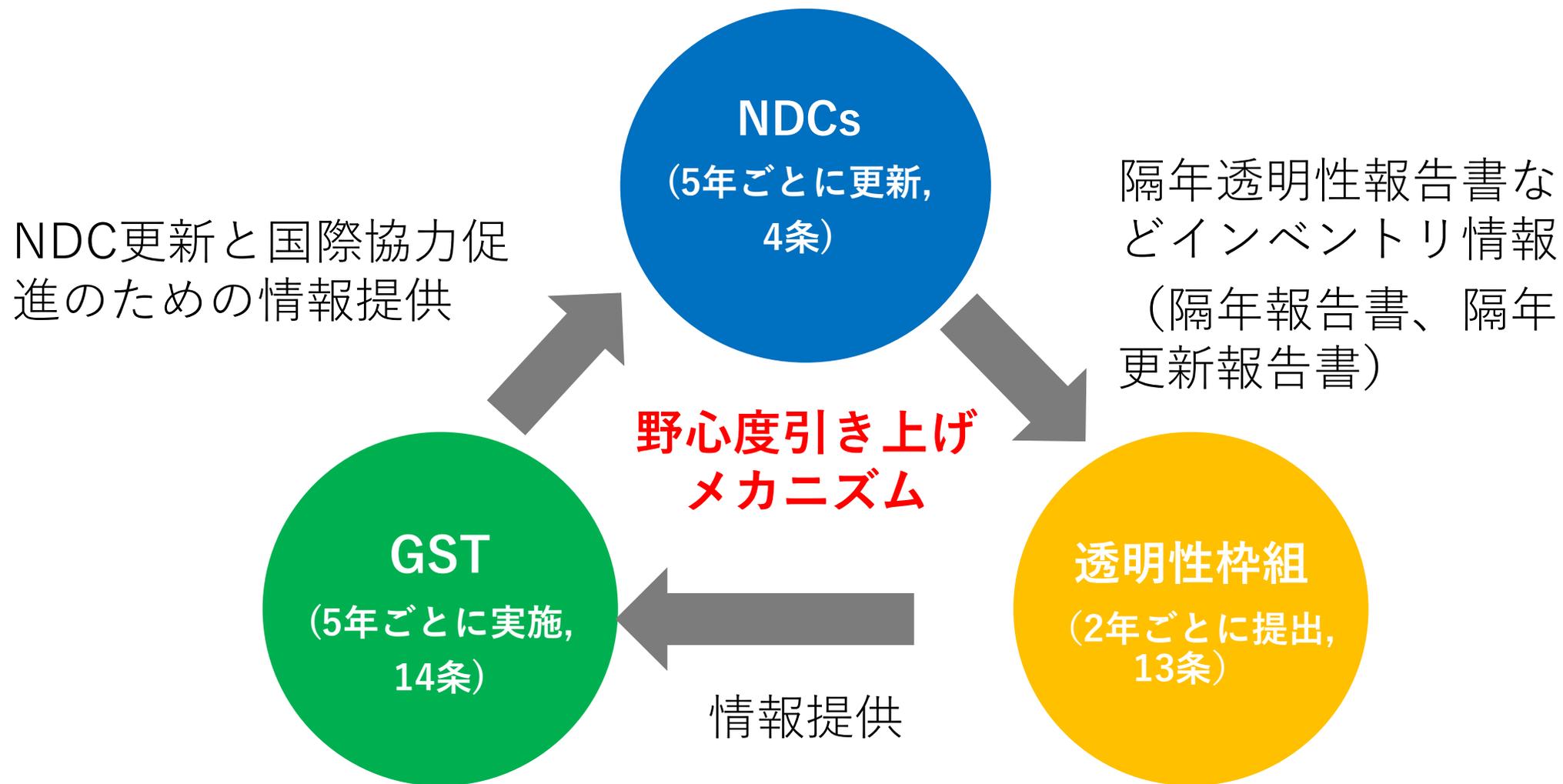
# 目次

1. グローバル・ストックテイク（GST）とは
2. 交渉の全体像
3. ルールブックの内容
4. 今後に向けて

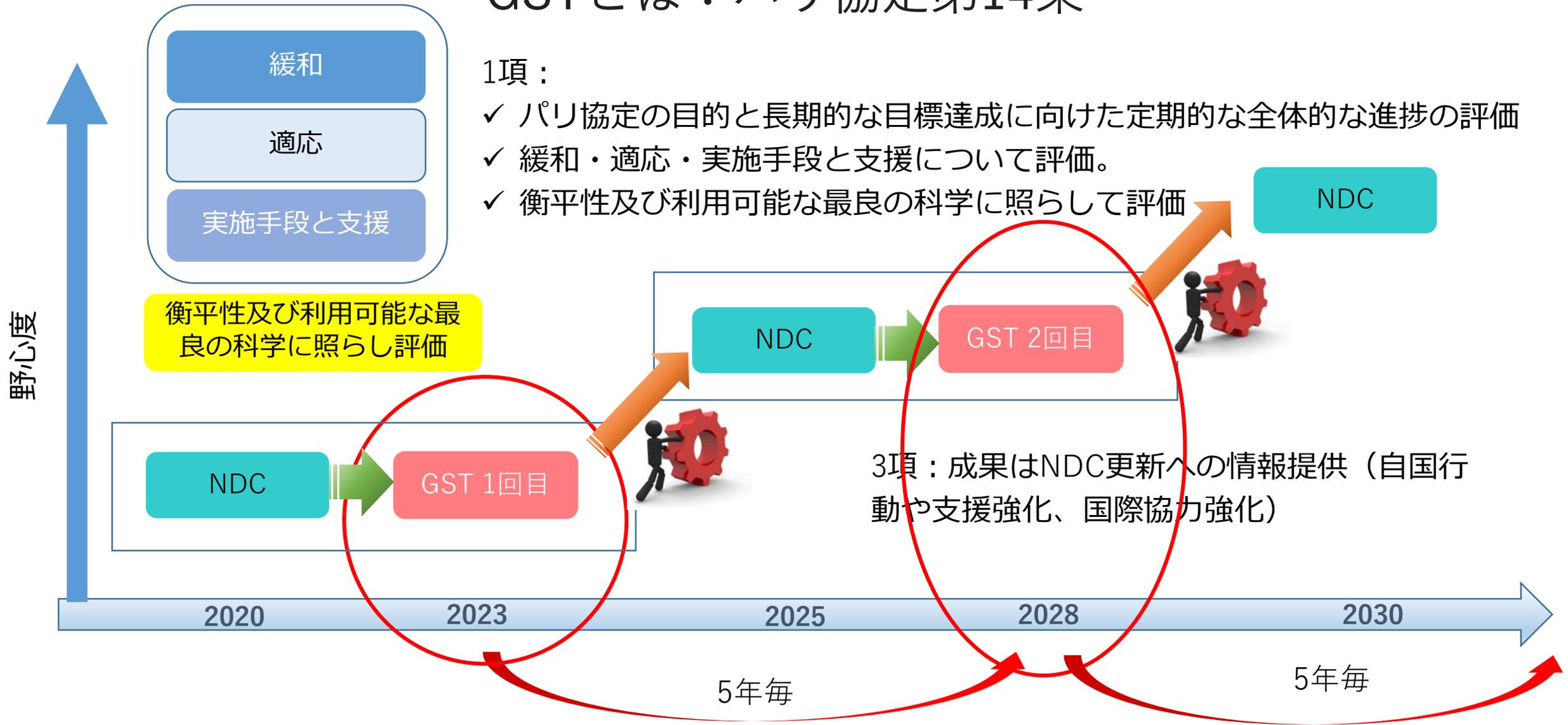
# 1. グローバル・ストックテイク (GST) とは

---

# グローバル・ストックテイク（GST）とは 「世界全体の実施状況の検討」（パリ協定での位置づけ）



# GSTとは：パリ協定第14条



※参照：田村堅太郎、野心度引き上げメカニズム、PPT、IGES

## 2. COP24までの交渉の全体像

---

# 交渉の全体像

## APA（パリ協定特別作業部会） 1-1～1-7における交渉

### ルールブック策定に向けた検討 （COP21決定で要請）

パラ99・101：APA 議題6での検討

1. モダリティ（実施手法）の策定
2. 情報源の特定

パラ100：SBSTAでの検討  
IPCC評価報告書がどう情報提供できるか

情報源（リスト）  
統合報告書の作成

## COP24での交渉

閣僚級  
での  
検討

スコープ（評価対象）、実施構成（ガバナンス）、実施主体、衡平性の反映、成果物、タイムライン、リンケージ、その他

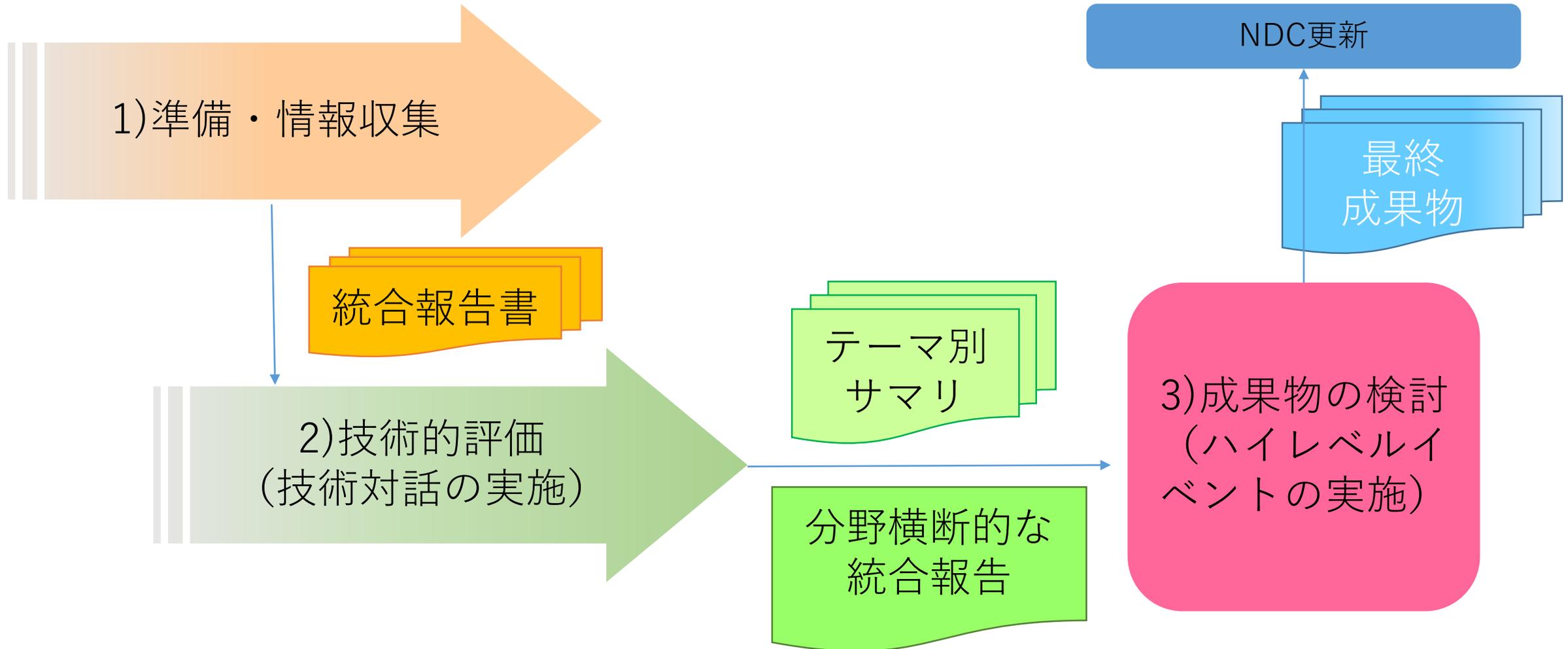
## COP決定

L.16  
（GST該当分）

### 3. 実施指針の内容

---

# 実施構成（どうやって）



# スコープ（何を）：検討内容

2条1項：協定の目的・  
長期目標

緩和 (a)

適応 (b)

資金フロー (c)

第14条：GST

緩和

適応

実施手段と支援

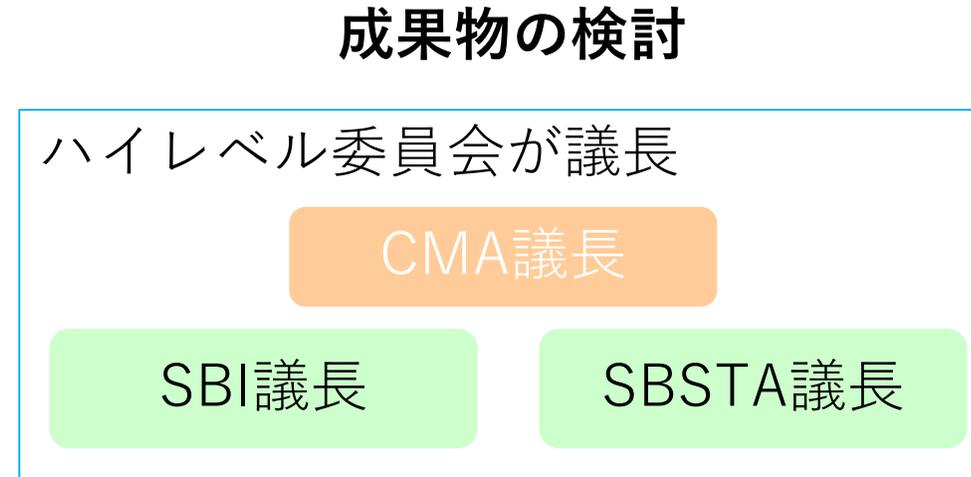
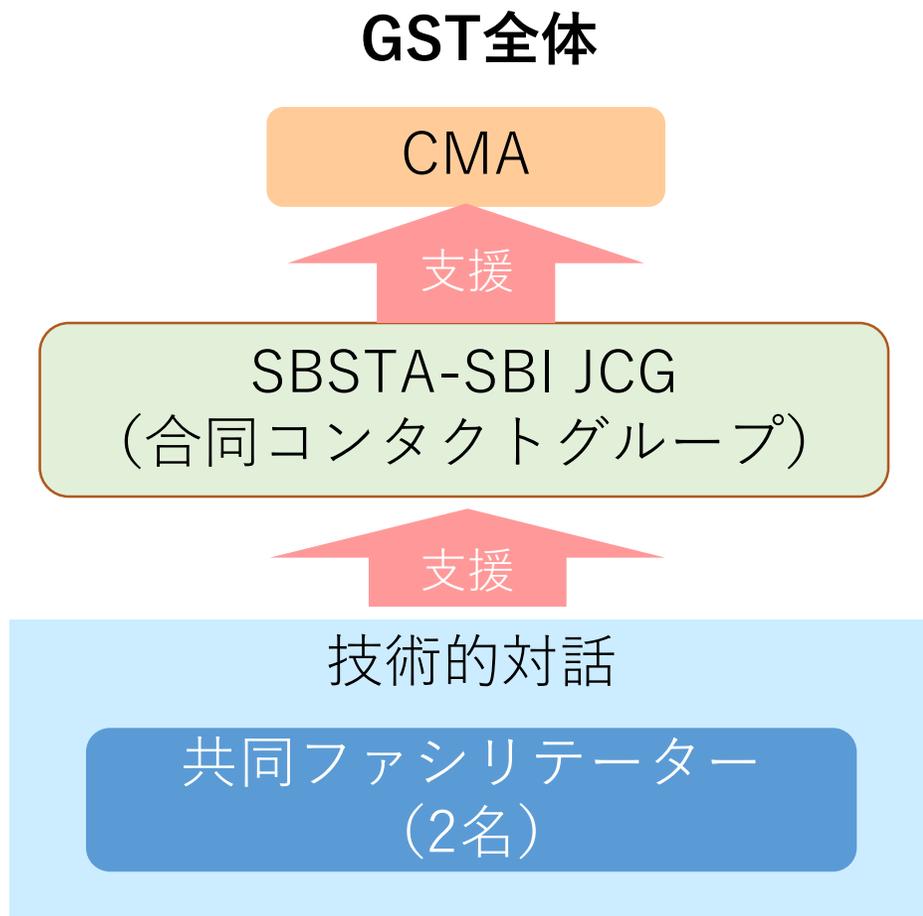
必要に応じて評価

対応措置

ロス&ダメージ

衡平性及び利用可能な最良の科学に照らし評価

# 実施主体（誰が）



## 情報リストの検討・更新



# 情報源と統合報告書の作成

条約関連組織やフォーラム、及びその他の制度的措置が専門性のある部分につき事務局の支援の下、統合報告書を作成

共同ファシリテーターの指示で事務局作成

GHG排出量の現状と緩和努力

自国決定に基づく貢献、全体としての進捗の影響

適応努力、支援、経験、優先事項の現状

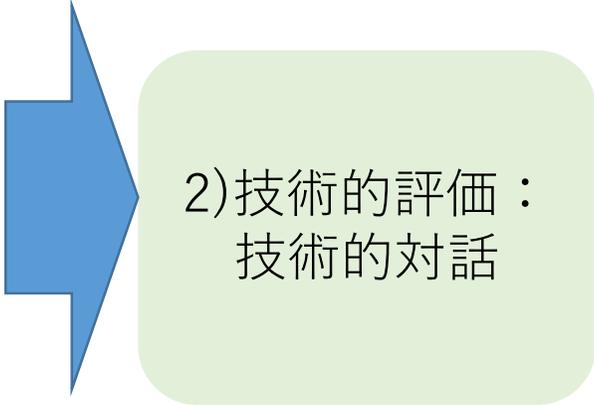
資金フロー、実施手段及び支援、動員と提供

ロス&ダメージ回避・最小限にする努力

資金、技術、キャパビルのギャップと課題

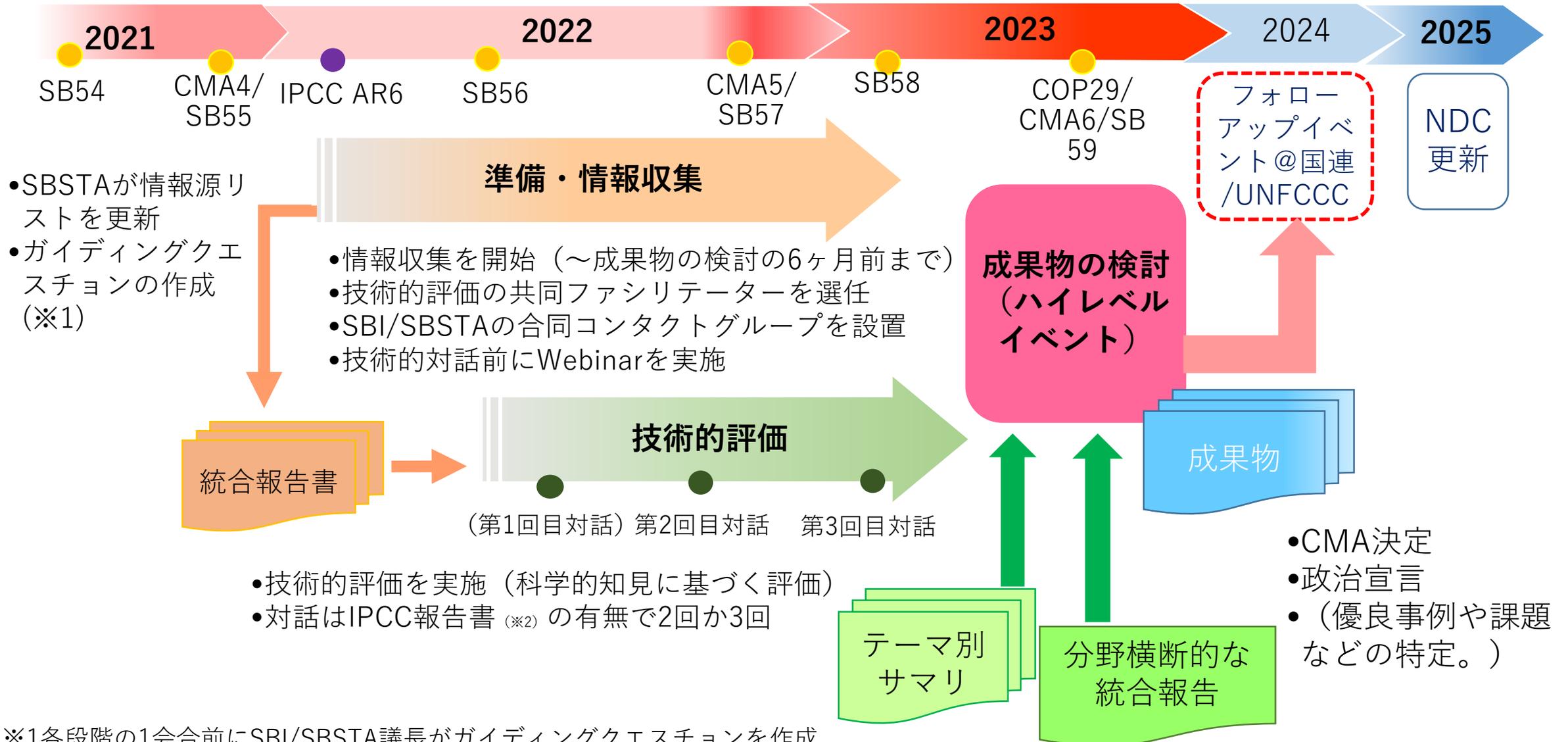
国際協力の促進、支援の強化のための優良事例、経験、潜在的機会

NDCの報告に基づく衡平性を含む公平



2)技術的評価：  
技術的対話

# 第1回GSTのイメージ（5年毎に繰り返し）



## 4. 全体的な評価と今後に向けて

---

## ルールブックの全体的な評価と第1回目の実施に向けて

- GSTを実施するにあたり、重要な要素について合意がなされ、方向性や基本的な実施内容が示された。
- 幅広い情報を検討する機会であり、単純にプロセスをこなすのではなく、野心引き上げのために実効性のあるストックテイクとするためにも周到な準備（他の議題、事務局やSBSTA・SBI・CMA議長との連携）が必要。
  - ✓ Learning by doingの条項をうまく活用すべき（ミニストックテイクの実施など?）。
- 本当の成果は2025年のNDCsの提出で決まる。

ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域 / 研究員

**池田恵理**

**IGES** Institute for Global Environmental Strategies  
公益財団法人 地球環境戦略研究機関

## 5. 參考資料

---

## パリ協定第14条（英語）

1. The Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to this Agreement shall periodically take stock of the implementation of this Agreement to assess the collective progress towards achieving the purpose of this Agreement and its long-term goals (referred to as the "global stocktake"). It shall do so in a comprehensive and facilitative manner, considering mitigation, adaptation and the means of implementation and support, and in the light of equity and the best available science.
2. The Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to this Agreement shall undertake its first global stocktake in 2023 and every five years thereafter unless otherwise decided by the Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to this Agreement.
3. The outcome of the global stocktake shall inform Parties in updating and enhancing, in a nationally determined manner, their actions and support in accordance with the relevant provisions of this Agreement, as well as in enhancing international cooperation for climate action.

## パリ協定第14条（日本語訳）

1. この協定の締約国の会合としての役割を果たす締約国会議は、この協定の目的及び長期的な目標の達成に向けた全体としての進捗状況を評価するためのこの協定の実施状況に関する定期的な検討（この協定において「世界全体の実施状況の検討」という。）を行う。この協定の締約国の会合としての役割を果たす締約国会議は、包括的及び促進的な方法で、緩和、適応並びに実施及び支援の手段を考慮して並びに衡平及び利用可能な最良の科学に照らして、世界全体の実施状況の検討を行う。
2. この協定の締約国の会合としての役割を果たす締約国会議は、この協定の締約国の会合としての役割を果たす締約国会議が別段の決定を行わない限り、最初の世界全体の実施状況の検討を2023年に行い、その後は5年ごとに行う。
3. 世界全体の実施状況の検討の結果については、各締約国が、この協定の関連の規定に従い自国が決定する方法によって自国の行動及び支援を更新し、及び強化するに当たり並びに気候に関する行動のための国際協力を強化するに当たり、締約国に対し、情報が提供される。

## COP24におけるインドの留保について

India wishes to express its strong reservation regarding the treatment of equity in the GST decision.

Equity is specifically mentioned in Article 14 of the PA and is the basic principle of the Convention and the Paris Agreement along with CBDR-RC. The entire GST exercise will be lopsided if the process, the input, the technical assessment and output of GST does not fully address equity.

To us, para 34 of the decision text and para 6b on GST should take the entire Article 2 into account to inform the GST process focusing on the equity aspects. Equity demands that the vulnerabilities, problems and challenges of the poor and marginalized be prioritized to ensure climate justice. This will ensure that the GST process stays relevant for all the segments of the society, especially the poor and the marginalized.

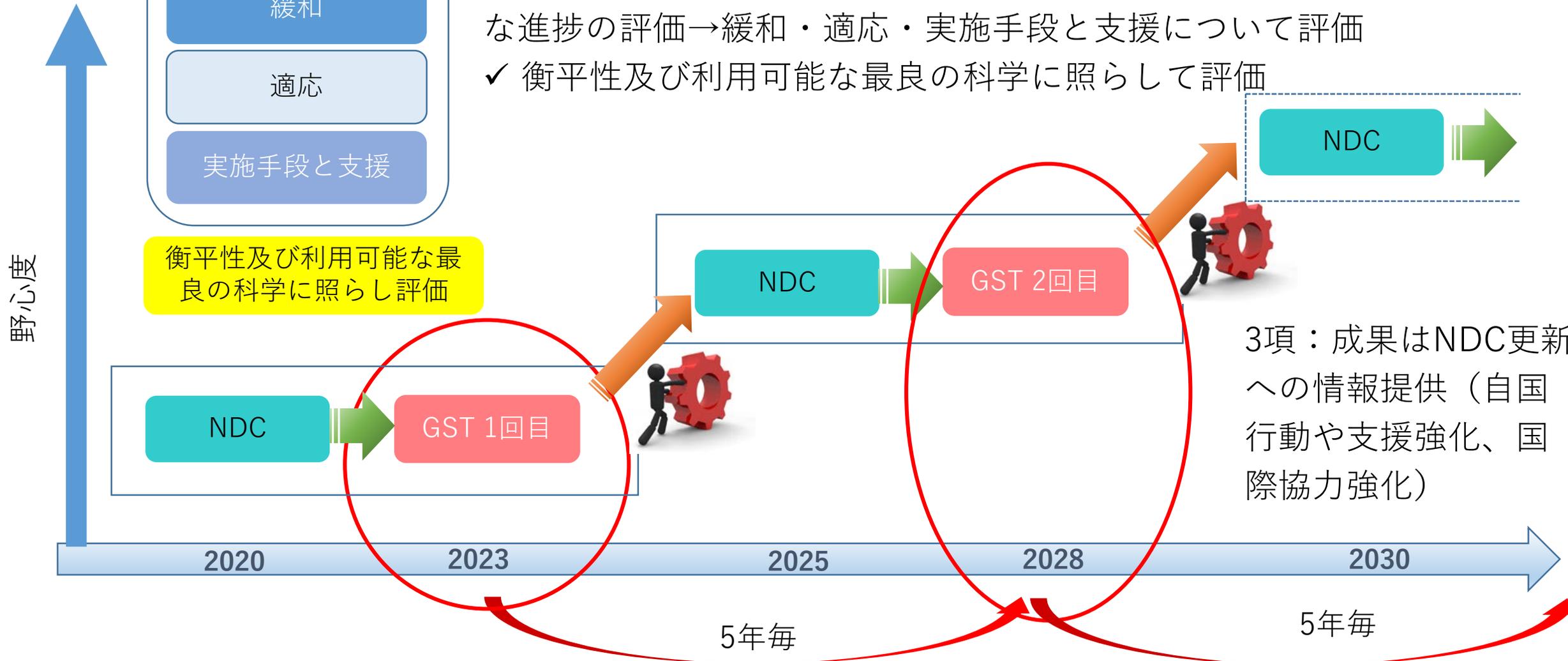
We would request that these reservation be inscribed in the record of the proceedings of this COP.

# GSTとは：パリ協定第14条



1項：パリ協定の目的と長期的な目標達成に向けた定期的な全体的な進捗の評価→緩和・適応・実施手段と支援について評価  
✓ 衡平性及び利用可能な最良の科学に照らして評価

衡平性及び利用可能な最良の科学に照らし評価



3項：成果はNDC更新への情報提供（自国行動や支援強化、国際協力強化）

2項：第1回目は2023年、その後5年毎に実施。